

【 県北の漆と産業 】

- ・ 茨城は全国第2位の産出県である。
- ・ 県産の漆（奥久慈漆）は透明性、肉持ち、塗り易さなど、日本では最高峰の位置する良質な漆である。
- ・ 高齢化、過疎化により漆掻き後継者不足が進み生産力が低下。
- ・ 漆を利用した地元製品が存在せず、原料産地に留まっているため認知度は低い。

【 課題 】

- ・ 漆生産者と地元木工企業の連携と、漆・漆製品生産環境の構築。
- ・ 漆製品の創出による漆産地を含めた地場産業づくり。
- ・ 漆の応用利用の検討。

【 目標 】

漆生産者と地元を中心とした木工関連の製造業者を繋げ、原材料生産から市場へと、川上から川下までの流れを構築し、「文化」及び「産業」を両立しながら、漆工製品の創出と産業体系作りを目指す。

- ① 有益な資源及び技術を持つ漆生産者と木工企業の連携コーディネート。
- ② 地域の資源を有効に活用した新製品の開発促進。
- ③ 漆の塗膜評価（透明性、測色、耐摩耗・耐光性など既存塗装との比較）による、優位性の明確化及び応用展開の可能性検討。

【 全体計画 】

- ① H19： 新規産業創出のための産業間の人的交流支援（漆生産者と木工業者のコーディネート）
- ② H20： 製品開発支援（試作）
- ③ H21： 製品開発支援（商品化）、奥久慈漆の性能評価・応用展開の検討（学官連携）

【 結果 】

地域木工企業及び漆生産者を結びつけ、もの作りに着手する事ができた。

- ① 人的交流を促進し、WG「奥久慈うるしの郷づくり準備委員会」を設置（H19）
- ② 若手の後継者1名を確保し、就業の支援（H19）
- ③ 各種広報活動の実施（H19年－笠間、H20年－笠間・つくば）
- ④ 製品試作（H20 2件実施中：家具製品、器製品）

【 今後の展開 】

- ① 試作品の製品化支援
- ② 漆応用化研究
- ③ 茨城デザインセレクションなど公的評価事業への参加
- ④ 各種見本市等、展示会等による販路開拓
- ⑤ 漆の応用展開の検討（学官連携）



奥久慈の漆



準備委員会



試作品と試作検討会



若手後継者